

新大陸神話 南米神話の北上 第2部

複雑、繰り返し
連載小説

参考スライド 前回（北上説1の最終頁）

- 1 似通いではない、違いを論じる
- 2 二通りの違い
 - 2-1 神話は同一、伝えかけは逆転
 - 2-3 神話は逆転、伝えかけは同一（法則性を内包）
- 3 相違と類似。対称性の中で正転と逆転（Identique、Inverse）。この規則性が伝播の証

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

そもそも同じ民族が南下した訳だから、民族も神話も同じルーツ、似通いは当然と反論される。

似通いの法則性は必要条件、レヴィストロースは十分条件に「連載小説」を持ち出した。南米神話の内容は簡素、短い。北米神話は同じ構成ながら筋立てが重層する。この差異を説明するには神話が北上したからとしか考えられないとした。

遠隔地伝播（北上説）は「新聞連載小説」と同じ

神話を受け取った側は、そのままの反復を避ける。元の神話になにか要素を継ぎ足す。これが幾度か繰り返されると筋道がより複雑に陥る。

これをして « roman- feuilleton » 現象（105頁）と規定する（直訳すると連載小説、同じ中身が「手を変え品を変え」繰り返される。原稿料と尺稼ぎの大衆小説）。

相違と類似、規則性のみではは北上説を証明しない
(必要条件)

煩雑化 (連載小説化) が南から北へ
(十分条件)

北米神話はより複雑

複雑化の説明；

« Des mythes paraissaient hétérogènes par le contenu et par des origines géographiques distinctes se montrent tous réductibles à un message unique qu'ils se bornent à transformer sur deux axes, l'un stylistique et l'autre lexicologique » (68頁) 神話は様々に内容、伝承される地域などで分かれ、それぞれが異型に受け止められる。しかしその伝えかけ (message) はある一点に統合される。

(第3巻「食事作法の起源 第二部 « Du mythe au roman » 「神話から物語」)

その一点を原点として、形体が分化するは2の軸で変遷する仕組みがあって、過程を経るにつれ原初の神話からは別の流れに向かう。2軸とは形体stylistiqueと言葉遣いlexicologiqueとなる。

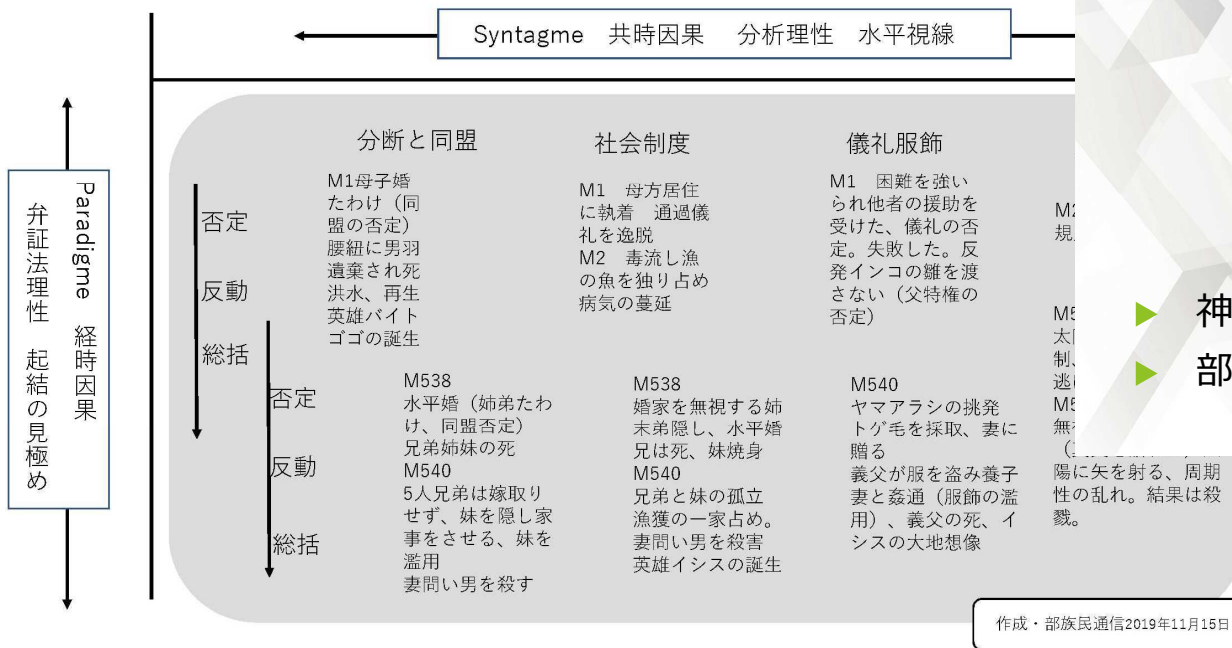
レヴィストロースが第一巻で主張したCode (符丁) を形体として、Codage (符丁の進行)を言葉遣いと言い換えれば理解しやすい。

(Symétrie対称性 = 前述を掲げ、同様Identique、反転Inverseで神話伝播を説明する思考に近い)

新大陸神話、 パラダイム 分析

参考スライド 神話の分析理性・弁証法理性

Bororo族、Klamath族神話比較の試み 2



▶ 神話北上説の解析
▶ 部族民通信 2022年1月

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

前文は、次の文につながる ；

« Comme le linge tordu et retordu par lavandière pour exprimer l'eau qu'il contient, la matière mythique laisse progressivement fuir ses principes internes d'organisation. Son contenu structural se dissipe. Au lieu des transformations vigoureuses du début, on n'observe, plus à la fin que des transformations exténuées. Ce phénomène nous était déjà paru dans le passage du réel au symbolique puis à l'imaginaire. La structure se dégrade en sérialité » (同書page105)

(神話の伝播過程とは) 洗濯女がリネンをひねってねじって、内に残る水分を絞り出すかの如く、神話の素材は(伝播のたびに)内の組織体が抱える理念が消えていく。構造体としてのまとまりも弱くなる。そもそもの発端神話では幾次かの伝播を経ても力強さは認められる、終点ともなると陳腐化した中身を晒すのみとなる。実体から象徴化、そして空想の変遷が神話伝播にまわり付き。(本来の)神話構造が(挿話)の単純繰り返し(sérialité)に埋もれる。

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

« Cette dégradation commence quand des structures d'opposition font place à des structures de réduplication » (同)

神話劣化は対立が繰り返しに替わる時点で明瞭になる。

神話伝播の過程を以下にまとめた ;

1. 筋道の複雑化 (素材の追加、重複)
2. 対立が消え、繰り返しに嵌まる
3. 陳腐化する (原初は力強い実体réel神話、次に原初の対立が象徴symboliqueに替わる、最後に (何でも追加するから) 空想imaginaireと伝播の様を指摘する

物語化していくから聞いて楽しい (小説化) 。

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

例は « Nous sommes parvenus à isoler l'ensemble (M60.M317,M402) au terme d'une long série » (104頁)

これら3の神話(M60.M317,M402)が実体、象徴、空想の発展を示しているとレヴィストロースが曰う。

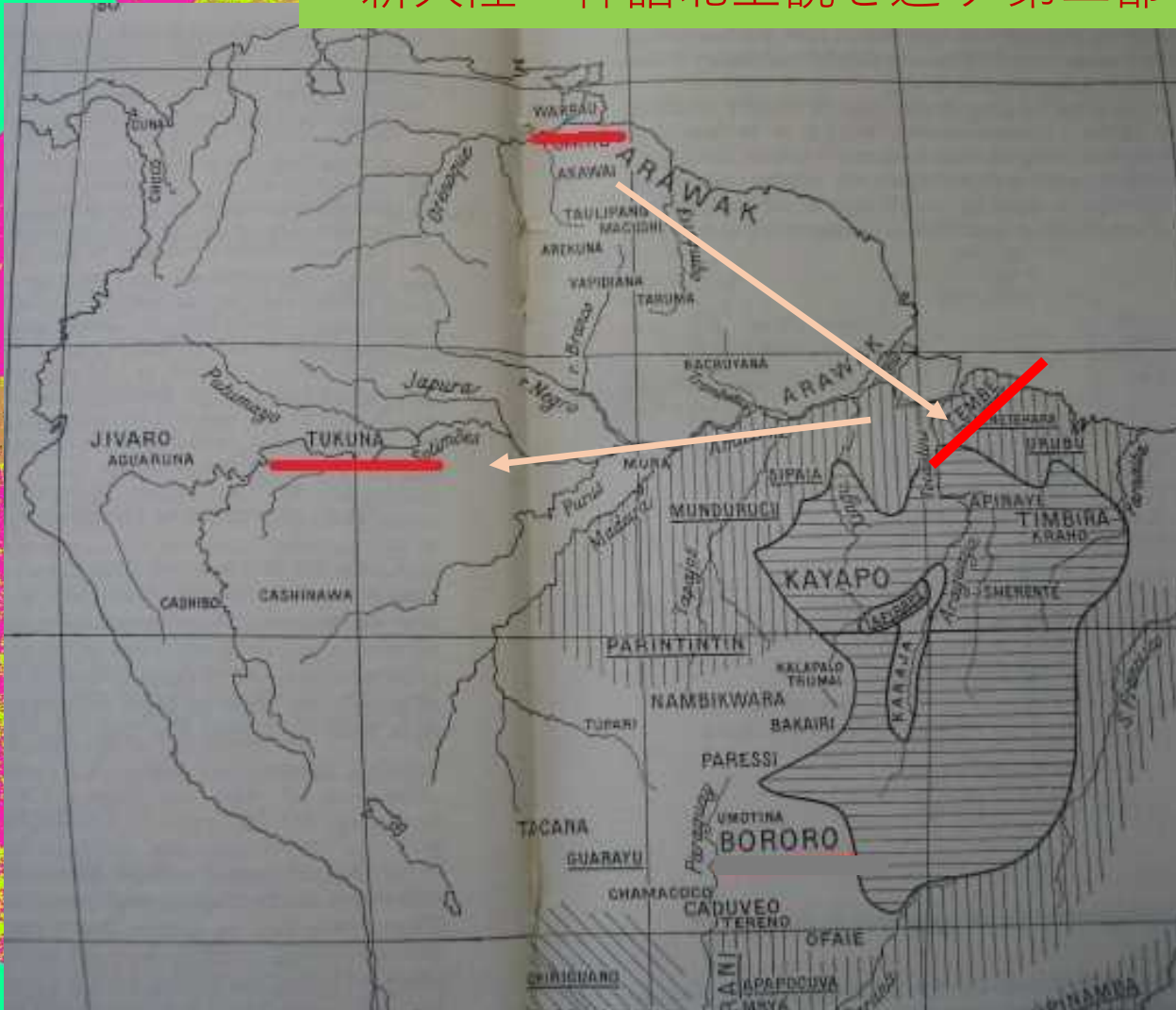
レヴィストロースは上記3神話のいずれが原初にあたり、他が派生（象徴空想）かを語らないから、部族民が振り分ける。

起点M317コロロマンナの冒険、
Warrau族伝承

象徴M402Tembe族伝承、ある男の冒険

空想M60Tukuna族伝承、シミディユの冒険

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説



Warrau族

Tembe族

Tukuna族

居住地域と

神話伝播経路（部族民通信）

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

起点神話 M317コロロマンナの冒険、Warrau族伝承（第2巻蜜から灰へ、332頁）

コロロマンナは狩りに出て吠え猿(guariba)を仕留めた。すでに夕刻、村落には戻れないから樹上で夜を明かす。悪霊共が猿を盗むと忍び込んできた。

« Il était bien ennuyé, d'autant que le cadavre du singe commençait à gonfler sur l'effet des gaz qui s'accumulaient à l'intérieur. De peur que les démons ne le volent son gibier. Kororomanna arme d'un bâton, devait le garder près de lui malgré l'odeur. Il s'endormit enfin, mais fut réveillé par le bruit des démons cognant contre les arbres. Il eut envie de se moquer d'eux et répondit à chaque coup en frappant le ventre du singe avec son bâton »

彼は焦った、獲物の猿は腸内のガスが腐敗し始め、腹が膨れてきた。さらには悪霊が猿を盗もうと忍び寄る。手持ちの棒を振るって追い返すが、敵も諦めず立ち戻る、臭うけど猿を手元に寄せた。うっかり寝てしまったが、悪霊らの忍び寄り音を耳にして目覚めた。悪霊らは彼を叩き始めた。よし、逆に彼奴等を馬鹿にしてやろう。猿の腹を棍棒で叩いて大きな音を立てた上にプープー臭いおならを出させ、そのたびに大きく笑う。こんな計略のはてに悪霊の隙をついて串刺しにして退治したとき。

実体réelである理由：1悪霊と人の対立 2知恵比で人が悪霊を退ける。以上が明確でそれのみを採り上げている。筋道が生き生きとしている。

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

第二段階、対立を「象徴」に変換する神話 : M402Tembe族伝承、ある男の冒険

男が悪霊に捕まり、殺されて白蟻塚に封じ込められた。なんとか逃げたが、またも悪霊に捕まり木の洞に押し込められた。逃避行では鱈に川を渡るを許された。つかの間の寝場所をめぐりウズラと諍い、その後も鹿、獾、猿、鼻熊に出会いそれぞれが「お前に射られた」と恨みを垂れる。いくつか冒険譚が広げられる。最終的に弟に見つけれ「正しい道のり」に足を踏み入れるに至った（99頁）。

Kororomannaでの対立は人と悪霊の一場面。Tembe神話では「人对自然」の対立を象徴化し繰り返す。

悪霊、白蟻、涉禽類（小鳥）、動物などに敷衍し、彼らから自然界への侵襲をヒトが指弾される。自然から撃肘される不届き狩人（夜の狩り、狩りすぎの狩人。第一巻生と調理収録の神話）と対比すると「自然とヒト対立の象徴化」この意味が理解できよう。

弟が指南する正しい道とは「象徴化した対立」から外れる調和の生き様かと理解する（神話そのものは紹介されていない）

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

対立を描く原初の「実体」からシンボル化を経て、空想の神話に移る

空想とはそもそもの主題に様々な変奏を加え、面白おかしく物語風に繰り返しで整形される神話（と部族民は）理解する

伝播のつまりは繰り返し空想

M60、Tukuna族伝承、シミディユの冒険（食事作法の起源92頁）

夫に捨てられたCimidyuëシミディユは猿に拾われる。

« Elle resta longtemps au pied de l'arbre, et comme elle ignorait le chemin du retour, elle décida de suivre les singes et de se nourrir des fruits qui lui jetaient. La nuit, les singes devenaient humains et conviaient leur protégée à dormir dans un des hamacs qui garnissaient leurs hutte. Au petit jour, la hutte et hamacs disparaissaient, les singes reprenaient leur aspect animal »

長いこと木の根本に座るシミディユ。猿の群れが樹上から果物を投げてくれた。猿達の後を追ひ、彼らの小屋に入った。夜になって猿は人間の姿に変わった。小屋に吊るし渡してあるハンモックに休みなさいと安心させた。よく朝、小屋もハンモックも消えていた、猿たちは元の姿に戻って森に走った。

猿ながら夜には人、狩りに向かうときにはジャガーに変身。その夕、猿は狩りから戻った。

« Le maître des singes s'endormit et annonça en ronflant qu'il allait manger l'héroïne. Inquiète, celle-ci le réveilla, ce qui le rendit furieux. Il se fit apporter un gros noyau de fruit dont il frappa son nez jusqu'à ce qu'il saignât. Là-dessus, il se rendormit et recommença à proférer des menaces en ronflant. Plusieurs fois de suite, Cimidyuë le réveilla et l'homme-singe continua à meurtrir son nez, dont il recueillit le sang dans une coupe pour le boire »

(シミディユの作った椰子酒にすっかり酔った猿王) 眠りこけいびきを立てながら「そのうちあの女を食うぞ」と寝言。シミディユは恐ろしくなって、なんて寝言云うの起きてよ～猿王を揺り起こした。眠りを邪魔されてすっかり怒った猿王、硬い果実でシミディユの鼻をしこたま打った。鼻血をコップに受けて飲んだ。寝たら寝言、そのたびに起こされ、女の鼻を叩く、こんなことが幾度か繰り返され夜が開ける。

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

猿王は弟Vankikaを見張りに残し、その晩にこそ彼女を食べるつもりで狩りに出る。シミディユの脚には糸が結ばれ、王は時折ひっぱり所在を確かめる。

«Vankika, frère du maître de singe, se tenait justement assis jambes croisées devant la porte. Conseillé par la tortue, Cimidyuë prit un gourdin et frappa d'un coup de sec le genou de l'homme, juste au-dessus de la rotule. Le coup lui fit si mal qu'il rétracta brusquement sa jambe. « Ne nous trahit pas ! » cria à la femme en passant. Vankika est visible dans la constellation d'Orion »

猿王の弟は彼女を閉じ込めた堀地の戸の前にあぐらをかいていた。シミディユは（亀にそそのかされ）棍棒を持って彼の膝をしこたま叩いてやった。その打ちぶりはあまりに痛く、彼の膝が縮まってしまった。逃げながらもシミディユは「どっちに逃げたかを教えるんじゃないよ」と脅した。

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

« Il demanda à son frère s'il avait vu passer « une grosse fille ». Toujours fou de douleurs. L'autre pria qu'on le laissât tranquille avec la « grosse fille » : il avait trop mal aux genou pour répondre »

猿王が帰り弟にあのでかい女はどこだ、逃げたのかと詰問する。弟は「オレ、足が痛いんだ。でかい女のことので気を乱さずに静かにさせてくれ」と噛み合わない（逃げる際のシミディユの脅しが効いている）。弟は足を失い、星座オリオン（足のない男）になったとき。この後、シミディユは村に戻り、枯れ茎の仮面で変装した夫を焼き殺すなど物語性の濃い筋道が続く。

新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

« Dès lors, on comprend pourquoi ces récits exotiques rappellent avec tant d'insistance un genre, non moins populaire que le leur, mais lié aux puissants moyens techniques aux besoins vulgaires de la société industrielle, nous voulons dire le roman feuilleton. » (page105)

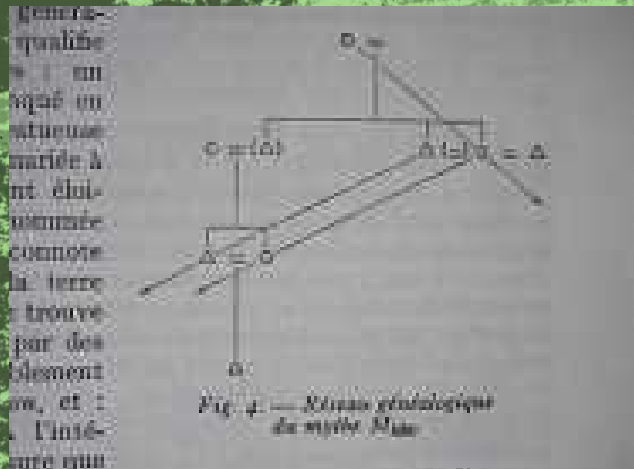
かくして他国の（南米先住民の）この神話はともかく、ある一つの類形を思い起こさせる。それは先進工業国の卑俗な願望に繋がり、大衆性の濃い性格で、連載小説と呼ばれている。星座の誕生、人と悪霊との関わりの骨子はM317コロロマンナと同様であるが、主人公の役付け、猿に付加される性状には空想が働いている。

もう一つの傍証例として英雄誕生の経緯を挙げる。

北米神話の英雄イシスはいわく因縁（近親姦）数次の重なるの果に生まれるが、原型と目されるM1神話では一回の上下婚（ノハコタワケ）が英雄誕生につながる。

（繰り返しは多層、複雑化。下図＝内容の似通いで前出＝を参照）。

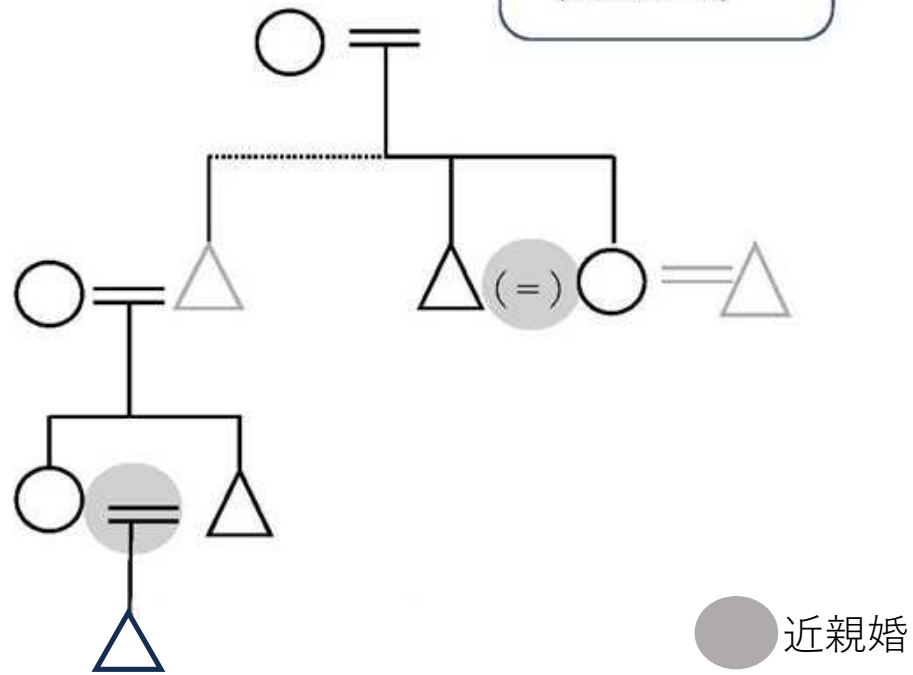
新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説



本書の挿画

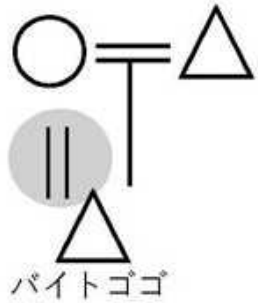


親族図2 M538
Klamath族
(裸の男47頁)

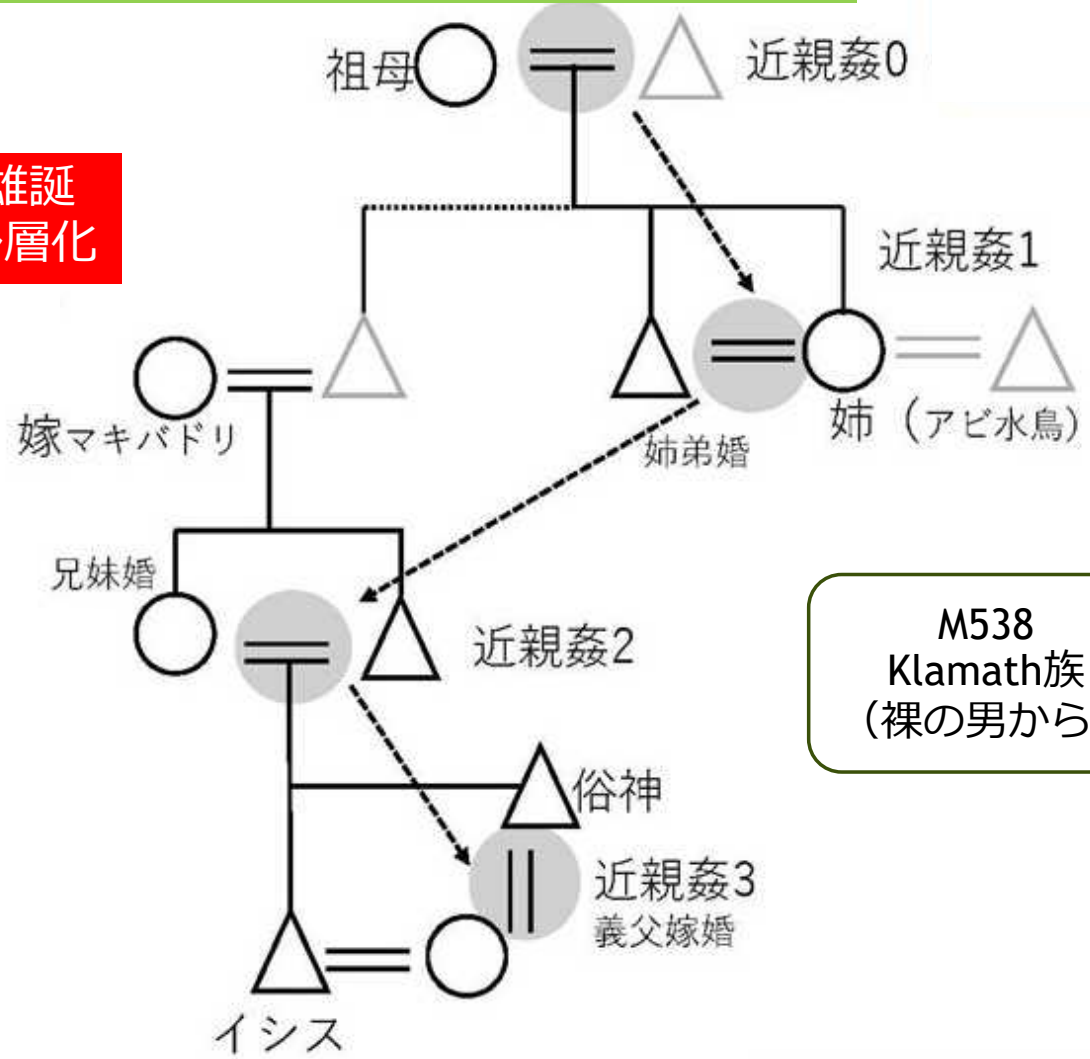


新大陸 神話北上説を追う 第二部 新聞連載小説

親族図 1 M1
Bororo族
(生と料理から)

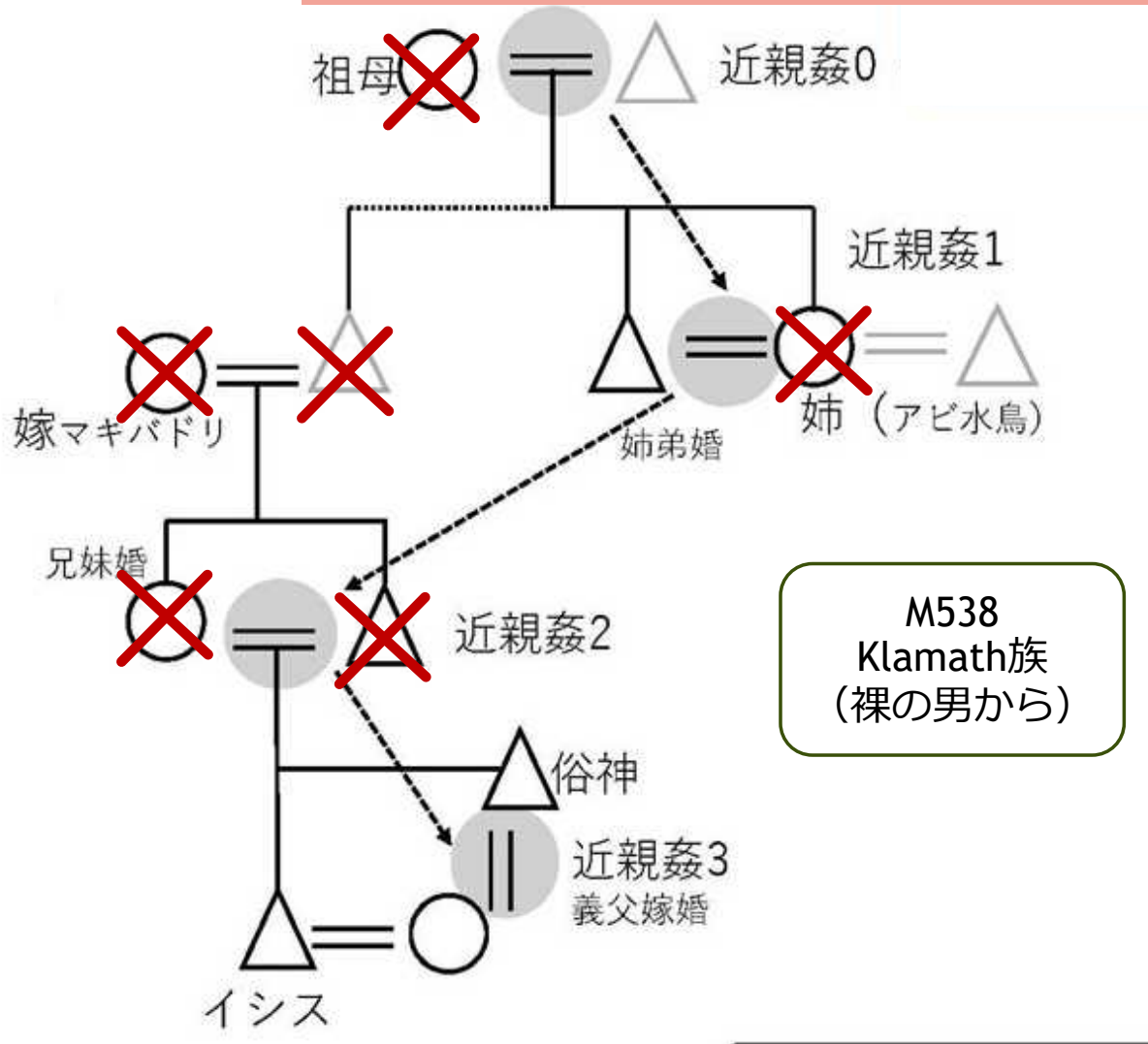


南米/北米神話、英雄誕生に至る 近親姦多層化



M538
Klamath族
(裸の男から)

南米/北米神話、英雄誕生に至る 近親姦と殺戮



× 殺害 6回

● 近親姦 4回

新大陸神話の北上説

必要条件 相違と類似の規則性
(同様Identique 対 逆転Inverse)

十分条件 煩雑化
(空想、繰り返し)



新大陸神話 南米神話の北上 第2部了

連載小説
複雑、繰り返し